

寺は崩壊するか

寺はとり残された。

深い山狭、曲りくねった山路の先に、小さな萱葺きの屋根をもつたお堂が建っている。

三年前に老住職が亡くなったのを最後に住職はいない。

不幸があると、隣り村のお坊さんがやって来てお経をあげてくれる。

戦後の農地解放までは、何町歩かの田畑から年貢が上がった。それ以後も、村人が坊さんの食いぶちだけは仏さんに上げてくれた。

戦後が終わると若い衆が、一人、又ひとりと町へ出ていった。

村には老人だけが残された。

住職のいなくなった今も、老人たちは月に一回集まって「お題目講」を続けている。

庫裡は二年前に朽ち壊された。

お堂も柱がゆがみ、障子も満足に開かない。

もう補修もきかないという。

何年か後には草生す中に墓だけが昔日を偲ぶよすがとして残されることになるのだろうか。

寺とは人々にとって何なのか

寺とは僧にとって何なのか

寺とは釈尊にとって

日蓮聖人にとって何であったのか

そもそも、寺は釈尊により法が説かれ、その弟子たちが修行する精舎であった。

人々が仏法を修行するところが寺である。

日蓮聖人は「法尊たうとければ人尊たうとし、人尊たうとければところ尊たうとし」と述べられている。

法華経を修行する人の住むところは清浄となつて、そこに集う人々もまた、浄化されると教えられている。これが寺である。

ここで改めて問う

何故寺はここに至つたのかを

単に建造物としての寺が古び

朽ち果てたのか

寺を護ろうとする

心やさしき人々がいなくなつてしまつたのか

寺はこの時代

用がなくなつてしまつたのか

世の中の変化に

寺はついていけなかつたのか

寺ではなく僧侶に問題があつたのか

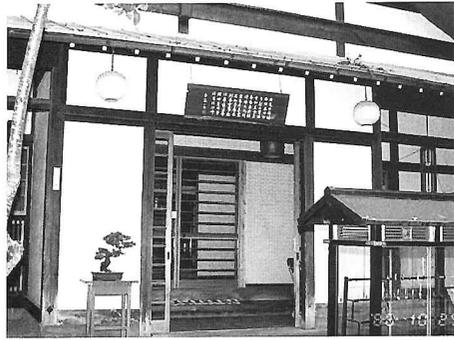
何が、誰がこうさせたのかを我々は知りたい。

知らなければ、これからの日蓮宗の未来を語ることはできないと考えるからである。

北海道 利尻・礼文島 P-18



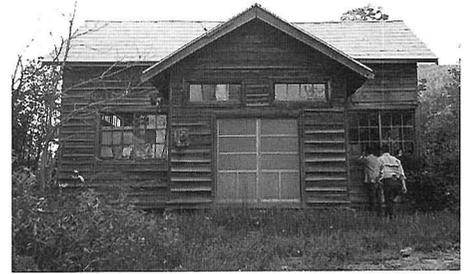
北海道(東部) 十勝・網走支庁 P-14



秋田県 横手市、阿仁町、その他 P-22



島 P-16



千葉県 多古町、大網白里町、長柄町、長生町 P-6

山梨県 早川町 P-4



目次

寺は崩壊するか P-1

各地の調査報告 P-4~23

まとめ P-24

過疎地寺院問題の懇談会 P-34

過疎地寺院問題を抱える宗会議員と宗務所長の会議 P-37



福井県 今庄町、名田庄村 P-10



島根県 隠岐島 P-20



京都府 宮津町、伊根町、久美浜町 P-8



新潟県 佐渡半島



島根県 大田市、横田町 P-12

